日本航空 OB 乗員 有志の会ニュース

2011. 06. 02

No.11-021

HP：http://jalfltcrewob.web.fc2.com/
Mail：jalfltcrewob@gmail.com

安全で明るい JAL

JAL の職場は疲弊している

解雇を撤回し、職場の信頼感を取り戻すところから、あらためてスタートしなければ ・・

検証・「安全性への影響、インシデントや事故に遭遇した乗員の救済さえも困難に」の危惧について

いま 社内外、あらゆるところで「行き過ぎた合理化による疲弊」そして それが「安全にも影響」として、警鐘、悲鳴が上がっています

最近のトラブル事例

フラップを巡航中におろしてしまった事例が 2 件発生。
出発前のブリーフィングで、注意喚起がなされている。
また、ミーティングや電話で全乗員に注意喚起がなされているが、それ以上の対策はなし。（Gear Lock Pin 外し忘れ、管制指示高度逸脱事例の後も同様の対応）
他にも
〈旅客の対応に追われていた客室乗務員が、出発時に航空機ドアモード切り替えを忘れ、地上作業員からの指摘で事なきを得た〉〈貨物室のドアが開いているにも係わらず牽引車両で航空機を動かしてしまった〉〈誤搭乗している旅客が判明し誘導路から引き返す〉〈航空機の脚を固定するギアピンを抜き忘れて離陸したため脚を収納できず引き返す〉などなど

運航本部長は、2011 年 1 月 6 日に
「繰り返し実施した雇用調整施策によって運航本部に所属する皆さんには心身ともに疲弊し、お互いへの信頼感も揺らいでしまった」と述べているようです。

乗員速報 57-260

業務内容の変化に起因すると考えられるトラブルも発生している

国会で日航への立ち入り検査の結果の報告がありました。（衆議院国土交通委員会 5 月 13 日）

国土交通大臣：・・・この結果、日本航空において、個別の安全上のトラブルについて、その原因分析や評価、再発防止策の徹底等の対応がとられていることを確認いたしました。また、これらのトラブルの発生状況に増加傾向は見られませんでした。しかしながら、大型機の急速な退役等に伴う各職員の業務内容の変化に起因すると考えられるトラブルも発生していることから、さらに積極的な安全施策を講ずる必要があると認められました・・。

議員：・・・やはり、整理解雇や成果主義の徹底、さらには賃金、労働条件の切り下げなどの影響で転職する若手層が増えているそうです。・・・
不安全事例が一層増えて、職制もどうしてこんなことが起きるのか、どうしたら良いかというかたちで嘆くようになっていると言われています。私の見ているところ、実情はより深刻になっているんじゃないかと思っています。

安全アドバイザリーグループ

職場に緊張感・疲労感が見られる
合理化行き過ぎてないか再評価を

日本航空社内誌『ROUTE』3月号は安全アドバイザリーグループ（座長柳田邦男氏）の意見を掲載しました。

■さまざまな合理化策が実行に移されていますが、それが行き過ぎになっていることはないか、再評価していただきたいと感じます。

■会社の急激な変化により、職場には心理的・生理的な緊張感・疲労感が見られました。経営は、社員一人ひとりが会社の将来をより具体的にイメージでき、そこに光が感じられるものを早急に示す必要があります。

航空連Phenix247号より

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

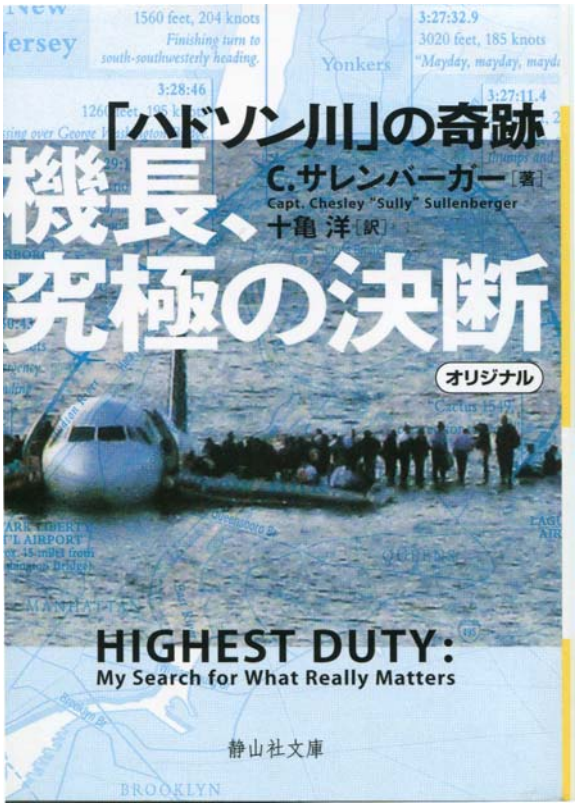
乗員養成訓練の長期停止そして更に訓練再開が遅れる（後ろ倒し）問題、インシデントなどに遭遇した乗員の救済など、ウォッチしていかなければならない問題は山積みのようです。

今の状態が進行し本当の破綻にならないためにも、解雇を撤回し、行き過ぎた合理化をやめ、職場に信頼感を取り戻すことからスタートすべきです。

～～～～　参考にどうぞ　～～～～

日乗連ニュース No. 34 – 17
日航の施策「整理解雇の人選基準(案)」は航空の安全を脅かす！
病気による乗務離脱などを基準にしたことの問題点が書かれています。

日乗連ニュースNo. 34 –23
日航・管財人の不当行為は許されない
なぜ高年齢労働者が安全と再建に必要ないと言えるのか



「生還できたのは、経験を積み、よく訓練された乗員のチームワークがあったから」
機長は当時 57 歳、副操縦士は 49 歳
JAL では整理解雇されています